

KALS NEWSLETTER 70

2025年1月
九州アメリカ文学会
事務局 福岡大学人文学部 大島由起子研究室内
福岡市城南区七隈8丁目19-1
〒814-0180

琉球大学の喜納育江先生が、今年4月から琉球大学の学長に就任されます。巻頭言をお願いしたところ、快くご寄稿下さいました。

喜納 育江 (琉球大学)

今年4月1日より琉球大学の学長の職を拝命することとなり、思いがけなくこのニューズレターで皆様にご報告させていただくこととなりました。

まず、昨年11月に次期学長に内定するや否や、その反響の大きさに驚きました。本学創立以来74年間、歴代の学長はおろか候補者にすら女性がいなかった中での初めての女性学長ということもありましたが、医学部・附属病院を擁する総合大学の学長としても日本初なのだそうです。2020年度の学校基本調査によると、日本の女性学長の数は、4年制の国立大学で86人中4人、公立で93人中19人、私立が607人中72人で、合計すると786校中95人でわずか12%、なかでも国立では5%に満たないことが指摘されていました。（『毎日新聞』2020年3月15日）つまり、反響が大きいほど浮き彫りになるのは、ジェンダー平等に対する日本の後進性であるといえます。

女性がどんなに職位を上げてでも決してトップにはなれないというメタファーが「ガラスの天井」ですが、米大統領選では、ヒラリー・クリントン、カマラ・ハリスを以てもなお壊れない「ガラスの天井」があることが明らかになりました。それどころか、DEI (Diversity, Equity, and Inclusion) の取組や、多様性を高める政策を取りやめることを明言するトランプ大統領の就任によって、アメリカの「ガラスの天井」は、もはやジェンダー以外にもさまざまな領域に出現することになるかもしれせん。

しかし、アイビーリーグ8校のうち6校が女性学長ですし、MITでもすでに二人の女性学長を誕生させています。ハーバード大学でも、同大初の黒人女性学長が誕生しました。すなわち、「ガラスの天井」が差別の時代の恥ずべき残滓であるという良識はアカデミアにおいてはまだ生きているといえます。「多様性こそが強み」という価値や環境主義といった価値を崩壊させたアメリカにどんな未来が待っているのか。アメリカを研究してきた私たちも、アメリカの良識を守る責任の一端を担っているのかもしれないと考えつつ、教育や研究の力が問われている時代に、アメリカ文学・

ジェンダー研究者としてひとつの大学の舵取りを任された責任の重さに身が引き締まる思いで、6年の任期を展望しているところです。

地区だより

《沖繩地区》

加瀬 保子 (琉球大学)

沖繩地区の最近の活動をご報告いたします。琉球大学の加瀬保子です。

ニューズレターの巻頭に喜納育江先生ご自身からのご報告もありますが、喜納先生は来年度4月より琉球大学学長に就任されることとなりました。喜納先生は女性学、ネイティブ・アメリカンの文学、島嶼地域の比較文学、環境文学などのご研究を通じて常に沖繩にお生まれになったご自身のこと、そして沖繩の抱える様々な問題と向き合われてきました。喜納先生が学長となられることで、琉球大学の地域社会への貢献に大きな希望が見えたと感じており、応援してきた私たちは大変喜んでおります。

小林正臣先生は精力的に研究活動に励んでおられ、Johns Hopkins University Press による *Arizona Quarterly: A Journal of American Literature, Culture, and Theory*, vol. 80, no. 4, Winter 2024 に先生の論文 “Poe's Prehistoric Fiction and Pre/Post-Humanity: Speculation via ‘Silence’ ” が掲載されました。小林先生は、「先史」という用語も観念も存在していなかった19世紀アメリカにおいて、ポーが、古代アフリカで文字が登場した瞬間の驚異や混乱を描いたことに注目し、ポーの短篇 “Silence--A Fable” を先史時代小説 (prehistoric fiction) の先駆的な作品として読み直しました。小林先生はこの解釈に基づき、ポーの “The Gold-Bug” も同様に先史時代小説として分析されています。また、小林先生の “The Speculative Nature of Things: ‘To Build a Fire’ and Its Intellectual Narrative” が日本英文学会の『英文学研究』英文号第66巻(2025)に掲載されます。小林先生は、ジャック・ロンドンの代表作の一つである “To Build a Fire” を反人間中心的な思弁的実在論を用い分析なさいました。特に、作中の三人称の語り手による温度や樹木、そして雪と火などのオブジェクトが、主人公、そして読者の思考の外側の存在として描かれていることに注目しておられます。

最後に加瀬自身の研究の状況をご報告させていただきます。先日行われた MLA の年次大会において、編者となっているアンソロジー *Emerging from the Rubble: Asian/American Writings on Disasters* (今年または来年アメリカの学術出版社 Vernon Press より出版) のテーマに基づいたスペシャルセッションで発表をさせていただきました。コロナ禍を予見したと評判になった Ling Ma の *Severance* について発表いたしました。

《鹿児島地区》

千代田 夏夫 (鹿児島大学)

鹿児島地区からのお便りです。森孝晴先生(鹿児島国際大学)から今回もお便りを頂戴しておりますので、お許しを得て転載させていただきます。

.....

古希になって持病も増え体力が落ちていますが、今は主に修士課程と博士課程の論文指導に明け暮れています。この3月で退職の予定でしたが、院生指導のため来年度の特任教授が決まりました。あと1年頑張ります。今後春に向け『ジャック・ロンドン研究』やニューズレターの発行に向け動き出します。また、この2年ほど手掛けている中田由松(ジャック・ロンドンの日本人使用人の一人)の新発見の膨大な日記の研究プロジェクトは引き続き若い研究者たちとともに進めているところです。ゆっくりやっていきたいと思います。

.....

いよいよ円熟の境地を迎えられる森先生、スケールは全く違いますが、今年は私のゼミでもフィッツジェラルドの第二長編『美しく呪われた者たち』(1922)中、主人公夫妻に仕える日本人召使に焦点を当てて卒論の一章とした学生さんがおりました。ご研究を拝読できます日を楽しみにさせていただきます。

《熊本地区》

楠元 実子 (熊本高専)

インフルエンザやコロナが流行している中、皆さまは元気に新年を迎えられたでしょうか。1月からは入試シーズンが始まり、また追試対応も増えて忙しくなると思われませんが、どうぞご自愛ください。なお、1月20日にはトランプ大統領の再就任が予定されています。彼の政策や移民対策など、今後の動向が気になるところです。

昨年9月には、ロサンゼルスで研修の機会がありました。主に日系アメリカ人作家 Wakako Yamauchi のアーカイブ調査を行い、その過程で彼女が孫に宛てて書いた物語を発見しました。親しくなったアーキビストの方が、私のお願いをきっかけにそのお孫さんに連絡を取ってくださいました。結果として、お孫さんはその物語の存在を知らなかったことが判明し、また、内容に関連して祖母から聞いた話を教えていただきました。大好きな作家に少しでもお役に立てたような、またその作家に少し近づけたような気がして、非常に充実した時間でした。この成果を含め、研修内容等については昨年11月9日に熊本大学英文学会で口頭発表を行いました。論文としてまとめる予定です。

さて、前回の報告以降に行われた熊本アメリカ文学研究会の活動についてご報告いたします。

○第168回(2024年9月28日) Zoom/熊本大学にて

題目： Rebecca Serle の *In Five Years* を読む

発表者： 池田 志郎

司会者： なし

* 下記は池田先生にレポートいただきました。

Rebecca Serle の *In Five Years* が取り上げられた。この作品は SF 要素があり、また専門的な研究対象とするには少々物足りないが、軽い読み物としては楽しめる。ポップな NY 事情や恋愛事情が描かれており、若い読者には受けが良いであろう。また、「結婚」に対する女性主人公の意識も興味深い。それに同意するにしても、反論するにしても、読者の価値観が試されるということになる。軽い読み物ではあるが、意外と考えさせられることもある作品である事も分かった。

なお、次回の第 169 回の会は 2025 年 1 月 25 日（土曜）に「老年期の日系 2 世女性のアイデンティティ: Julie Otsuka の“Dien Perdidi”と Wakako Yamauchi の“So What; Who Cares?” より」について開催予定となっています。ご関心がある方は、メールで楠元 (kusumoto@kumamoto-nct.ac.jp) までご連絡ください。

《北九州地区》

齊藤 園子（北九州市立大学）

北九州地区からは、まず北九州アメリカ文学研究会のご報告です。今回も薬師寺元子先生より直接次のお便りを頂戴いたしました。

.....

北九州アメリカ文学研究会の活動について 2 件ご報告致します。

(1) 第 21 回研究発表会実施

日時： 2024 年 10 月 5 日（土） 14：00～17：00

会場： 北九州市立大学 北方キャンパス内 本館 D-402

☆ 研究発表 1

題目：マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』とヘーゲル

——成長物語と成長拒否、近代的自我と不幸な意識、主人と奴隷の弁証法と予型論をめぐって

発表者：吉津 京平（北九州市立大学非常勤講師）

司会者：谷山 知子（福岡県立三池高等学校非常勤講師）

☆ 研究発表 2

題目：オッペンハイマーの生涯と映画『オッペンハイマー』の製作意図

発表者：村田 希巳子（北九州市立大学非常勤講師）

司会者：穴井 孝好（アメリカ文学研究家）

研究発表1では、意気込み溢れる吉津先生が1840年代の奴隷制南部を舞台にした、マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』（1885）において、ドイツの哲学者ヘーゲルの『精神現象学』（1807）における、主人と奴隷の弁証法との共通点と相違点を軸に、マーク・トウェインやアメリカの成長物語について非常に詳細に発表して下さいました。

研究発表2では、経験豊かな村田先生が、映像と共に原爆に取り組んだオープンハイマーや著名な物理学者たちの倫理的姿勢を対比、分析し、史実と原作、映画を比較し、そこから見えてくる映画の製作意図を分析し、彼の実物像を解りやすく丁寧に発表下さいました。

(2) 第12回特別講演会

日時：2024年11月9日（土）14:00～17:00

会場：北九州市立大学 北方キャンパス 本館D-402

講演者：大島由起子先生（日本メルヴィル学会副会長）

演題：『白鯨』及び「ノーフォーク島のチョラ族の寡婦」について

司会者：村田希巳子（北九州市立大学非常勤講師）

大島由起子先生のご講演は 会員に加えて市民や学生も参加致しました。ご講演の前半は、「ノーフォーク島のチョラ族の寡婦」、後半は『白鯨』について、約3時間に渡って、大島先生独特のお言葉で、ダイナミックなご説明に、一同深く感動致しました。特に、大きな黒板を端から端まで、利用され、チョークで図解を書かれ、難解な『白鯨』を解りやすく分析下さり、非常にユニークで興味深いご講演でした。

2025年1月14日 薬師寺 元子

.....

齊藤からですが、佐賀地区の名本達也先生からも前回のニューズレターで告知がございましたが、2021年に発足した日本ヘンリー・ジェイムズ協会の第4回目となる年次大会が9月に九州産業大学で開催されました。私自身は学外研究により参加できませんでしたが、協会となって以降、初めての対面開催が実現し、九州アメリカ文学会の会員も多く参加され、充実した会合を持たれたとうかがいました。ジェイムズ協会のホームページからダウンロードできるニューズレターもぜひご覧ください。11月に公開された第4号の特集のテーマは、ジェイムズ作品の翻訳と研究との関わりです。私も寄稿させていただきました。その他では、長年続けてきた英語模擬国連の取り組みの一環で、11月末から12月にかけて開催された、模擬国連ガラパゴス大会（NMUN Galápagos 2024）に参加してきました。北九州市立大学の学生がHonorable Mention Delegation Awardを受賞しました。大変頼もしく思います [<https://www.kitakyu-u.ac.jp/news/2024/12/005418.html>]。

【九州アメリカ文学会第70回大会発表者募集】

九州アメリカ文学会第70回大会は、以下のとおり開催いたします。

日時：2025年5月10日（土）、11日（日）

会場：長崎大学（10日）、グラバー園（11日）

特別講演：西谷拓哉先生（神戸大学）

シンポジウム：「未定」（現在調整中）司会 樋渡真理子先生（福岡大学）

下記の要領で研究発表を募集いたしますので、ふるってご応募ください。

締切：2025年2月末日

提出先：高野泰志（九州大学） takano@lit.kyushu-u.ac.jp

レジュメの様式：日本文の場合500-800字程度とし、数行の英語の要旨または数語のキーワードを文末に付加すること。英文の場合は300語程度。作家名と書名は原則として原語綴りに統一。

【日本アメリカ文学会第64回全国大会発表者募集】

日本アメリカ文学会の第64回全国大会（2025年9月27日（土）、28日（日）開催予定、於：松山大学文京キャンパス）にて研究発表を希望される方は、以下の要領でレジュメを提出ください。

1. 締切：毎年3月31日（九州支部事務局必着）。

2. 提出先：九州支部事務局 oshima-y@fukuoka-u.ac.jp

3. A4横書きのレジュメ（和文の場合1200字程度、英文の場合400 words程度）と略歴を、次の方法で支部事務局に提出すること。なお、発表タイトルと氏名は英訳したものを併記し、作家名と書名は原則として原語綴りに統一すること。

4. 略歴は次の項目を記載してください。

- ・氏名
- ・住所（郵便番号をつける）
- ・e-mail address および電話番号
- ・最終学歴
- ・現在の所属（非常勤講師は（非）、院生は（院）とつける）
- ・研究業績（過去3年間の口頭発表、掲載論文は、タイトル、発表年月日、掲載誌を記すこと）

5. 全国大会開催支部以外の支部に所属している現役大学院生ないし申請時に大学院修了または退学後3年以内で常勤職を持たない会員で大会において研究発表を行う者に対して、本部より一人一律2万円の旅費を補助いたします（「本部会費」を納入している支部が「所属支部」となります）。申し込みについては支部を通じて手続きや連絡を行うこととなります。上記4の略歴によって申請条件を判断しますので、最終学歴と現在の所属を明確に記載するようにしてください。

6. その他：Wordで作成したレジュメと略歴のファイル（.docまたは.docx）をメールに添付し、支部事務局へ送信する。レジュメのファイル名は、「全国大会 レジュメ自身のフルネーム」、発表者略歴のファイル名は、「全国大会略歴 自身のフルネーム」とする。カギ括弧を必ず付ける。

【日本英文学会第97回全国大会の日程変更について】

既に一斉メールでも周知されましたが、5月24日（土）、25日（日）に開催と案内されていた2025年の日本英文学会第97回全国大会は、開催校側（東京大学本郷キャンパス）の学園祭の日程変更に伴い、5月31日（土）、6月1日（日）へと変更となりました。詳しくは、日本英文学会ホームページの第97回全国大会概要ページ（<https://www.elsj.org/meeting/97th.html>）をご覧ください。

【九州アメリカ文学賞（新人賞）への応募について】

電子メールによる応募のみの受付です。以下の宛先まで原稿をお送りいただきますようお願いいたします。

締切：2025年2月20日（木）

提出先：秋好礼子（福岡大学） reikoa@fukuoka-u.ac.jp

投稿規定：https://www.kyushu-als.org/userfiles/news_contents/scHfLjXanXaxB11VFC0.pdf

編集後記

お待たせいたしました。KALS NEWSLETTER 第70号をお届けいたします。執筆していただきました先生方には、心からお礼を申し上げます。

今号は、喜納育江先生の琉球大学学長ご就任という大変うれしいニュースをお伝えさせていただきました。6年間の大学運営の舵取りは大変なことと推察いたしますが、九州アメリカ文学会会員の皆様も全力でサポートして下さることと思います。

7月例会に続き、12月例会も充実した内容でした。例会担当の先生方、お疲れさまでした。望むらくは、1名でも多い会員の皆様のご参加です。若い先生方を、九州アメリカ文学会全員で盛り上げていきましょう！

（江頭理江 福岡教育大学）